ふれあい

題字　林　邑一

第 10 号
平成2年3月31日
阿品台地区
コミュニティをすすめる会
阿品台公民館
（TEL 39-4338）

阿品台人口世帯数
平成2年2月1日
人口 11,813人（男5,730人、女6,083）
世帯数 3,529世帯

未来に翔ける子供達の為に

阿品台コミュニティを進める会
青少年部部長　浜崎武彦

まず、私が子供達の健全育成にたずさわったのは、昭和五十八年三月にこの阿品台に移り住み始めた時から地域の柔道スポーツ少年団の指導者としてスタート致しました。その後東小PTA副会長、会長、又コミュニティの青少年部部長として活動してまいりました。

この間感じた事は個々の活動がその枠内で限定されていて仲々他との連携がないのではないかと考えました。それが為に阿品台東小校区内でも学校、地域、家庭が一体となった全体会をもち共通の悩み、問題を検討しようではないかという発想のもとに昨年一月に、第一回地域の子供をすなおに育てる会がもたれ各町内会、子供会、PTA、地域での活動されておられる指導者が一同に集まりました。本年二月に第二回目としてこの会を拡げて、阿品台地区全体にしようという事になりました。この小さな活動を大きくひいては市全体が一つの輪に発展する事を願っております。

幸い我が阿品台地区の子供達に特筆すべき大きな事故、問題がない為に関心をもっておられない様に感じられますが、しかし現状のままで良いのでしょうか!!

昔から衣食足りて礼節を知ると言われておりますが、果たして今そのことわざどおりでしょうか!!

とにかく子供のしつけの問題にしても子供の嫌がる事はさけ好きな事だけをさせる、個性を偏重させすぎ社会に協調出来ない子供を育てているのではないでしょうか。学校、家庭、地域が一体となった教育が今この時代に一番必要ではないでしょうか。

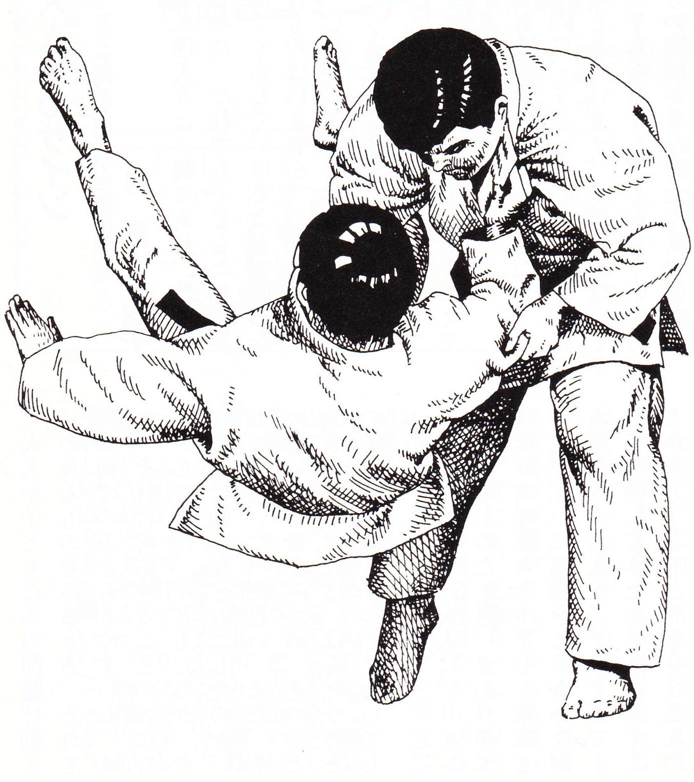
阿品台地区に育っている子供達はこの恵まれた環境での生活においてより立派に成長する為には我々は親、先輩として地域の子供達の為に今何が出来るか、何をすれば良いか、一緒になって考えてみようではありませんか!!

色々な形で子供達の健全育成の為として、PTA、町内会、子供会等の役をたずさわっておられると思います。しかし今一度本音として考えてもらってみて、これは今年一年だけの役だからという考え方で役員としての任期を消化されているのではないでしょうか。子供達への接し方にしても子供達の思うままにさせているのではないでしょうか!!

私は七年前から地域の子供達に柔道を指導しておりますが、暑い時、寒い時、疲れている時、多々あります。しかし柔道衣に着替え、子供達と一生懸命柔道をする事で真のスキン・シップが生まれ、子供達とのふれあいが出来、柔道を通じての教育ができると思います。子供達には大人の一生懸命な姿をみせると子供達も真剣にとり組んでくれます。子供達と身近な目標をたててそれに到達出来る様努力し、為し遂げた時は一緒になって喜び泣く事が、真の子供達とのふれあいと思います。

未来ある子供達、無限の可能性を秘めた子供達、我々がその足枷をするのではなく、真のしつけを植えつけ未来へ翔けてもらいたいと願っております。

阿品台コミュニティ青少年部としては大きな輪、皆と一緒な連帯としての活動を考えており、今後共皆様の御協力を賜りたく、お願い申し上げる次第でございます。



コミュニティ文化部

部長　平田文孝

阿品台に街が出来て十年がたちました。施設面でも交通面においても諸先輩方の御努力のおかげで、立派なものになって参りました。

とくに地域が総力を挙げて取り組んだ、JR阿品台駅の設置は、地域の創造的な市民運動となり民間活力を発揮した画期的な出来事であったように思います。身近な生活環境の質の向上につながる事業はこれからも永続性をもって取り組んでいくべきであろうと思います。

この運動のすばらしい点は、市民(地域住民)と企業(JR・商店・スーパー・ナタリーetc)と行政の三者が一体となった(第六セクターとでも呼んだらいいのかもしれません)運動であり、従来の除去型市民運動ではなく(例えば高層マンション反対、ゴミ焼却場設置反対など)まったく違った、イデオロギー衝突の介在しない新しい創造的な市民運動であったという点です。

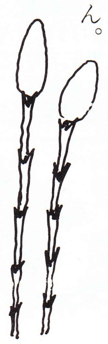
街を活き活きした潤いのある自分のふるさとと呼べる街にしたいという希望は、だれもがみんな持っていると思いますが、こうした快適な環境の創出は、すべて国や市がやってくれるという時代ではなくなっています。どうしても一部自己負担を覚悟しないと(当然、資金的に可能な無理のない範囲で)新しい事業が推進出来なかったわけですが、この大きな壁を見事クリア出来たのは、この地域に住んでおられる方々の熱意の賜物であったと思います。

このような創造的市民運動が、今後、福祉、文化(文化財の保護、地域芸能の振興、文化ホールの設立、児童図書館の設立)、環境保護・育成(緑を守る・水を活かした街づくり)、駅前広場、CATV、市民農園といった方面で発展していけば、すばらしい街づくりが出来るのではないかと思っております。

実際、最近廿日市市に設立されました親子劇場もこういった新しい自前の創造型文化運動といっていいでしょう。子供達に生の舞台劇、人形劇、音楽の鑑賞をとうして、夢をはぐくみ、心豊かに育てていこうという運動であり今後の活躍を楽しみにしています。この中心メンバーも阿品台在住の方がやっておられます。すばらしい事だと思います。

自分としては、その器ではないと思いつつも阿品台コミュニティ文化部の大役を引き受けて二年経過しました。この間、企画したイベント毎に、すばらしい方々とのふれあい・出会いがありました。六十三年度では四丁目在住の山下彰一広島大学教授に「アジアの現状について」、福原英幸廿日市市教育委員長には「地域の教育力」六十四年度では、三丁目在住の紺谷広大教授の御紹介で、八木佐市広大名誉教授に「コミュニティとは」上田宗嗣上田流若宗匠には「茶の心」、それぞれの分野でトップを行かれる方々の講演であり、正直なところ、自分自身にとって大変有意義であり、忙しい中を来て下さった講演者の方々に深くお礼を申し上げたいと思います。

今後とも、阿品台の文化活動が、地域での同心円の核となり、皆さんの協力を得て、さざ波のようにひろまっていくことを願ってやみません。



大人へのサイン

阿品台東小生徒指導　河野砂智子

私達大人は、親であれ、教職員であれ、だれでも子どもたちが笑顔でくらしていけることを願わないものはいません。

しかし、今の世の中、大人でさえ、くらしにくくなっているなか、多くの子どもたちは笑顔を失っていき、心に様々な問題をかかえています。

ある小児科の先生の話だと、全国的に、子どもの心身症がふえているといいます。その原因は、それぞれちがうし、しかも、いくつもの原因が重なったうえでおこってくることですが、ほとんど、子ども自身の問題というより家庭や学校など、まわりの大人に問題があるためにおこるそうです。

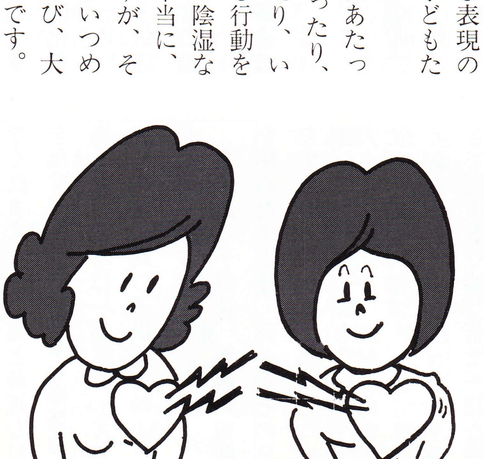
心身症と診断されないまでも、やり場のない思いを様々な表現のしかたであらわしている子どもたちをみます。

ささいなことで人や物にあたったり、急に無口になっていったり、弱い立場のものをいじめたり、いわゆる問題行動といわれる行動をおこしていったり、匿名の陰湿ないたずらをしたりなど、本当に、いろんなかたちで表しますが、それらは、いいかえたら、おいつめられた子ども達の心のさけび、大人へのサインだと思えるのです。

大人が子どもたちの問題行動といわれるものをみるとき、それを現象面でのみとらえやすいし、また、それに対応することのみになりがちですが、子どもたちが、そういう行動をなぜおこしたのか、おこすにいたった思い、また、その思いの背景をみつめ、その子と向き合わなければ、ほんとうのその子の笑顔はもどってこないでしょう。

子どもたちが、大人に、サインを出しはじめたとき、まわりの大人は、素早くキャッチし、家庭と学校が互いに連絡をとり合いながら、まず、大人が、どう今まで子どもと接してきたかをみなおすことから、子どもと向き合うことが大切です。

子どもたちが、のびやかな笑顔で育っていけるように見守ることが、私達大人の責任ではないかと思います。



中学生と向い合って思うこと

中二・保護者の声

社会とあまり関わりをもたず、子育てのみに生甲斐を感じています阿品台の住人です。

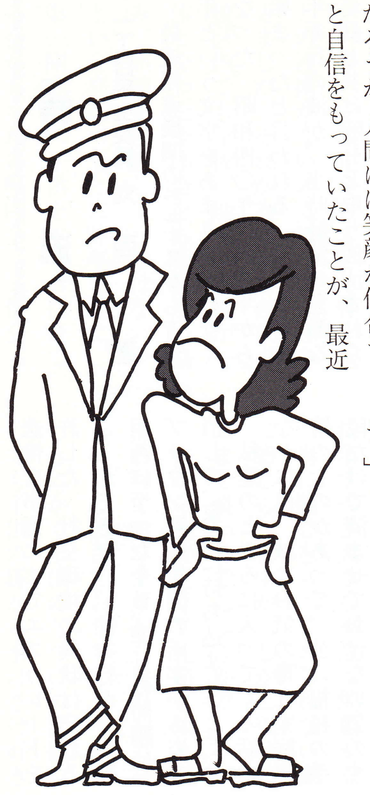
背丈が親を越すあたりの中学生の変化は、実に目まぐるしく、かつて見せたことのない目をして反発したり、ある時は妙に寡黙であったり、たまには幼い頃の笑顔そのまま素直で優しかったり、我が家はまるで食物屋の日替り定食のごとく回転中。流石成長期真只中の子供、お腹を十分に満たすと、やっと一息、といった具合で親子のコミュニケーションは「会話」の前にまず「食事」これをモットーにしています。

若者と感性を同じくし、共に歩めたらという思いで娯楽番組に高笑いする親子です。しかし、人格形成上大切な時期にこんな容易なことでいいのだろうか。伝えるべきことが他に一杯あるのではないだろうか。人間には笑顔が似合う、と自信をもっていたことが、最近ガタガタと崩れ「厳しさとは」と今自分に問い質しています。

子供がどんな行動をしようとこれは親の責任と思い反省材料としてきたことで、一時の感情で怒ることはあっても、ゆっくり向かい合って心から「叱る」という経験が果たしてあっただろうか。親子は一時が万事楽ばかり求め面倒なことを避けて通った部分のつけが、思春期の今、回ってきたかのごとしです。

「ぼくは一度も母から怒られた記憶がない。」これは人生のすばらしい先輩の言葉です。正しく叱ることが私に課せられたテーマだと思うのですが、先輩の母上の様に、子供を信じて、いつかくるであろう自立の時を、静かに待つ親っていいなあ、というのが母としてのあこがれです。

落ち込んだり、奮起したり、まだまだ試行錯誤の毎日で心がいつも動揺していますが、子供を通じて知り合った地域のお母さん方「いつも励まし支えて頂いてありがとう。」



阿品台に高齢者のふれあいの会をつくりましょう

五丁目　中　尾　　實

平成二年一月一日現在で、
廿日市市人口……六一、六二五人
六〇才以上…九、〇七五人
阿品台人口……一一、八一三人
六〇才以上……一、八七八人

廿日市市老人クラブ連合会に加盟している人は三、〇〇九人で五六団体です。阿品台の老人は三丁目の五八名の一団体だけです。

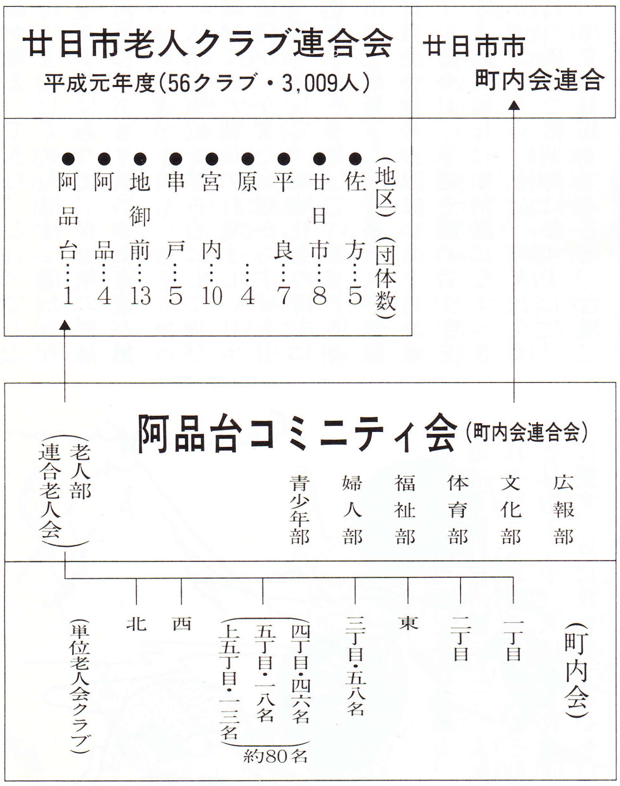
そこで私は皆様に、提案いたしたいのです。阿品台の高齢者が「ふれあいの場」をつくろうではありませんか。「仲間づくり」「生きがいづくり」の話し合いが出来ます。

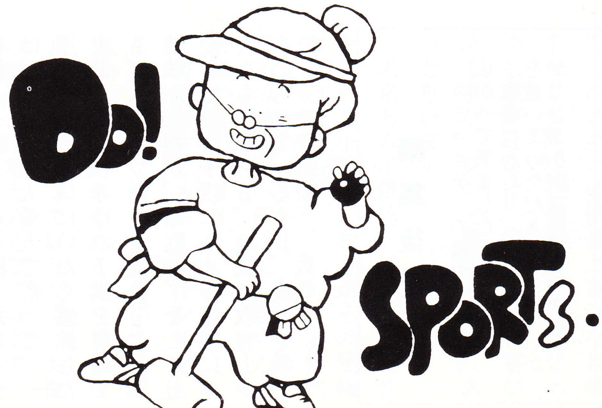
昨年度末の阿品台コミュニティの役員会で私は老人会の結成について提言いたしましたが、もう一年が終わろうとしています。阿品台内町内会単位で老人クラブを結成して、コミュニティ会に老人クラブ連合会を加えていただき、「地域づくり」に協力しましょう。更に廿日市市老人クラブ連合会に加盟して、「心豊かな仲間」と「いきがいの創造」に励みましょう。

私の居住している五丁目町内会では六〇才以上が三十人だけなので、四丁目の方へ呼びかけまして、この一月にやっと話が進み、四丁目、五丁目、上五丁目の三ケ町内会で役八十名の同士の賛同を得ましたので、この二月末には老人クラブ結成をすることになりました。大変うれしく思っています。

一丁目、二丁目の方でもそれぞれ結成の準備がされていると思います。更に東、北等夫〃に一町内会又は数ヶ町内会合同で夫〃話合いされて単位老人クラブを早急に結成されるよう要望します。

平成二年度初めの四月には阿品台コミュニティ会に連合老人会として編入していただき、老人会の目的である、一、高齢者相互の親睦をはかり、二、健康な余生を送り、三、ふれあいの町づくりに寄与しようではありませんか。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。





『時流』

一丁目民生委員　丸　西　　遜

最近報道機関のニュースから青少年という文字をあまり見かけなくなった。昭和四〇年代の後半から始まったと言われる、第三次青少年非行の波が、当時経済の急激な変動と共に随分と取り沙汰されたものである。

爾後尾を引いた一連の非行問題は、校内暴力からいじめに至り、ついには首吊り自殺に追い込む、悲惨な事態にまでエスカレートを許した、社会環境の異状は忘れることができない。性非行から登校拒否に至った今日、非行の問題は、ブラウン管や新聞の活字から姿を消して、家庭に持ち込まれてきた。

私達のところに入ってくる話のなかには、誠にお気の毒な家庭事情のものがあって、公の福祉の手段だけで済ませておけない気のするものが幾つかある。

地域福祉の重要性が叫ばれて概ね十年近く手探りが続いたが、最近漸く在宅福祉という一つの具体論が纒まってきた。と言ってもこれは主として老人福祉に係わるものが多分にあって、青少年の福祉対策にはあまり該当する方策が無いように思う。

人情や家庭を踏み台にして伸び続けてきた戦後の目覚ましい日本経済が、今また家庭から主婦を引っ張り出して、地域社会の構成に変化を来そうとしている。子供の出生立が低下し、将来の人材確保に黄色い信号が出ていると言われている今日、家庭を暖め青少年を守る地域福祉は如何様になすべきか頭がいたい。私は、昨年民生委員の研修で鹿児島に参りました。

出発の朝起きてみると、台風二十二号が奄美大島付近を北北東に進んでいると言う。佐田岬を中心にコンパスを当ててみると、広島と台風の位置が等距離にあって、飛行機は鹿児島上空でバッタリと台風嬢に出会いそうである。予定が変えられないので、ハラハラする思いで搭乗したYSは、黒い雲の上を飛ぶこと約一時間、難無く鹿児島空港に着陸した。緊張した凧の糸が切れたような思いで出迎えのバスに乗ると、ガイドの女性が今日の宿は恐妻会館だという。ここまできてまた怖い思いをするのかと、ひとり苦笑しながら宿に向かった。

城山公園の一角にある宿泊施設は、国家公務員共済組合敬天閣であった。玄関を入るとそこに『敬天愛人』と大書された額が掛けてある。近寄ってみると、それは西郷隆盛の遺訓だと記されてある。『道は天地自然の道にして、人はこれを行うものなり。故に天を敬うを目的となす。天は人も我も同一に愛す。故に我を愛する心を以て人を愛すべし。』と東西名言辞典に註釈されている。

西郷と言えば、今、NHKで日曜日の夜八時から、西田敏行と南果歩さん、ほか豪華キャストを並べて、「翔ぶがごとく」と言う連続もののテレビドラマが放映されているので、多くの方が見ておいでのことと思う。変化の激しい物流時代に敬天愛人は如何様に展開されるのであろうか。これからが楽しみである。

台風一過午後のにぶい陽差しの中、南州墓地を訪ねた。西郷隆盛を中心としてその部下であった不世出の郷士や明治維新の有名な薩摩人の墓のある所に「嘘を言うな。負けるな。苛めるな。」と書かれた立て札があった。近頃の子供達に聞かせてやりたい、誠に至当な言葉があるものだと、同行の士共々つくづく感じた次第。

由来について南州神社の宮司さんに訪ねたところ、古くから伝わる郷中教育即ち薩摩伝統の教育理念であるとの説明であった。「方便是莫嘘」と大言したいところである。

人の住むところ古今を通じて共に悩み、感じて道を開く地域社会は、まさに敬天愛人であって、一連の言葉や遺訓にいたく感銘した次第である。非行の子供を責めても、子供は良くはならないと思う。地域が、親が、家庭が、そして社会の風潮が子供に与える影響に多大なものがある。地域の教育力が求められている今日、良案を教えてほしい。

〈了〉

和歌

沖とおく白帆すぎれば憶い出の
影ゆらめきて　蒼き波立つ

小奈沙美（コナサビ）の白浪　立てる姿よき
堪えしこころのほのか和（ナゴ）みぬ

西往こか東まいろか　ひとり旅
青野に花も　つみたしぞ春

己が胸の息吹の如く吐（フ）く煙
浅間よきかな　北軽の空

老いてさらに渡ることなき玄海の
濤（ナミ）高けれど　夢はかわらじ

掌（テ）に取りし小菊　なつかし我も亦
日宇那の里に　返り咲きたし

柴　安　花　詩

（小奈沙美（コナサビ）は絵の島のことです）

小庭べの霜ふみかけて　はこべ草
春待つ我に　ほゝえむがごと

目白ひよつぐみうぐいすそれぞれに
それぞれに遊ぶ我が庭の客

鬼は外鬼は外福は内
孫らと拾う　老いの仕合わせ

一丁目　横　山　靖　子

編集後記

コミュニティの輪もいっそう広がって来ました。老若にわたり、活動のようすを書いていただきましたがいかがでしょうか。発展を祈ります。